



「元輝学舎」せんだ通信 1

校長川柳「千田小 進級入学で 咲く笑顔」
平成 23 年 4 月 20 日 広島市立千田小学校

90名の新1年生を迎え、582名の児童との夢を育てるあゆみが、ここ千田小「元輝学舎」で始まりました。

この学舎名への思いは、
児童一人ひとりが元気で輝き感を味わえる学校
(そのために)

千田小教育の充実を図り、児童一人ひとりの
効力感(「できる感」)と効用感(「役にたっている感」)を高めてまいります。
「元輝学舎」せんだ通信は、学校生活のようす、児童の努力の成果やあゆみをこの広報紙にまとめ、お知らせするものです。

ことばの教育をすすめる一環として、千田小等に視写活動を、感じ考えの深さに感動!!!!
廊下の掲示板には、詩集や国語の教科書にある詩を書き写した児童作品が。

たとえば、2年生『たけのこぐん』の視写のなかには、詩から感じ取ったイメージの絵(右写真)が。見事に詩の世界、竹の力強さを表現しています。



また、5年生『あいたくて』の視写のなかには、詩の世界を作者と共有し、命の尊さなど感じたものを豊かに表現した児童の想い(下枠)が添えられています。

私が今ここにいるのは、友だちや家族に会えるのは、私が生まれているからだなぁと思いました。作者の工藤さんは、虫や人、生きるていすべての人に、みんなに会いたから、詩題を『あいたくて』としたんだなぁと思いました。・・・(後略)

学びあうことから、考え方のひきだしを増やす6年生。すごいよ!!!!

参観日、6年生のある学級では算数の学習が。問題は、斜線部分の面積を求めるものであった。一人ひとりの自力解決の後、黒板には数名の児童の解決の道筋が。同じ解「57cm」でありながら、加算式、減算式等、解への多様な考え方が式という形で並んでいます。よく熟された内容に感動。

その後、担任の先生から「それぞれの式の意味を、だれか(板書にまとめた児童をのぞく)説明してください」という指示が。しばらくして、数名の児童の発表が始まりました。担任が準備した教具を利用した説明には説得力があり、再び感動するとともに、説明を聴き入る全児童の態度や瞳の輝きに、師弟同行で問題解決している姿に感心もしたひと時でした。

給食も始まり学校生活にも慣れ、集中して学ぶ1年生もすごいよ。!!!!



< 学習時のようす >



< 給食時のようす >